

夜須高原スマイルライフキャンプ

1 趣 旨

ひとり親家庭の生活の向上や安心に寄与するため、保護者同士で子育てに関する不安や悩みを共有し、互いに学び合い、ネットワークづくりを行う。また、様々な自然体験活動・生活体験活動を通して、親子間や子ども同士のコミュニケーションを深め、子どもの自立心や協調性、自己肯定感、チャレンジ精神等の向上を図る。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 連携先

北九州市母子寡婦福祉会（ルックひまわり）

4 協 力

北九州市ESD協議会

私たちの未来環境プロジェクト（講師：副代表 西藤誉志也 氏）

5 期 日

〔第1回〕令和2年10月 4日（日）

〔第2回〕令和2年12月13日（日）

6 会 場

〔第1回〕国立夜須高原青少年自然の家

〔第2回〕北九州市ウェルとばた（北九州市母子寡婦福祉会）

7 対 象

北九州母子寡婦福祉会（ルックひまわり）会員 *親子で参加（50名）

8 参加者 全74名

〔第1回〕39名（14家族）

〔第2回〕50名（17家族）

9 日 程

〔第1回〕10月4日（日）

（午前）出会いのつどい、(ESDを踏まえた)昆虫講座、テント設営体験

（午後）ホットドックづくり、昆虫探し、木酢狩り、別れのつどい

〔第2回〕12月13日（日）

（午前）クリスマスクラフト ※午前中のみ



10 活動の実際

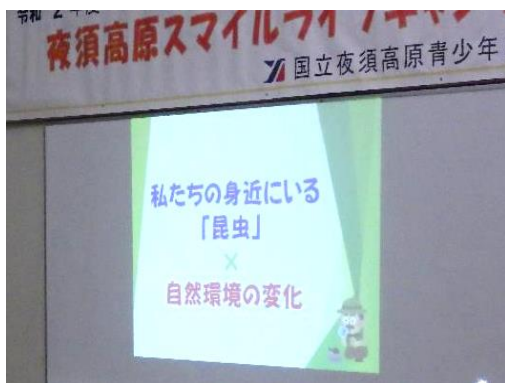
〔第1回〕



【出会いのつどい】



【SDGs の説明】



【昆虫のお話：西藤誉志也先生】



【テント設営】



【ホットドックづくり】





【昆虫探し】



【木酢狩り】

【別れのつどい】

〔第2回〕



【クリスマスクラフト…子供と保護者で別れて活動】



【クリスマスクラフト…両者の作品を合体させて完成】

11 アンケートから

<保護者>

- 昆虫のことにに関してとても丁寧に説明されていて、よく分かりました。子どもにも分かりやすかったと思います。
- 昆虫図鑑を持ち歩いて行くとよかったと思います。初めてのテント、火を使用しての昼食作りに大変喜んでいました。
- 子どもたちを含めて、日頃の運動不足に気づくことができました…。そして何より自然の心地よさや人とのつながりの有難さを感じることができ、明日への活力にできる一日となりました。
- キャンプは一泊体験で楽しみたいと思いました。自然の中で楽しい体験ができました。
- 今度は一泊二日のキャンプにも参加したいです。

<子ども>

- (昆虫のお話を聞いて)虫は人間よりも大先輩だと知っておどろきました。
- キリギリスとかバッタを捕まえられてうれしかった。
- バッタはよくとんで、あみでつかまえてもすばしっこく、やっぱりはやいなと思いました。ホットドックは作り方がかんたんでした。
- はじめて来たけど、スタッフさんもやさしいし、ホットドックをつくるのもはじめてで、とてもたのしかった。

<北九州母子寡婦福祉会で回収した感想文から>

☆参加者(子ども)

(デイキャンプでしたが)本当のキャンプをしているように、ホットドックを作ったりできたのは、スタッフさんや周りにいてサポートしてくれた人のおかげだと思います。また、テントをはるとき、今まで知らなかった人とも協力して行動できたり、なかなか体験できない木酢狩りも体験できたので、一日という短い時間でしたが、思い出に残るものになりました。ありがとうございました。

☆参加者(保護者)

季候のよい中での活動となりました。普段感じられない自然の風や虫の声、それからいつも見せない子どもの表情など、自然って素晴らしいなと改めて感じました。

いつもは虫も触れない子どもたちですが、今日はカナヘビやバッタ、コオロギを一生懸命に追っかけている姿にたくましさを感じました。貴重な体験をありがとうございました。

12 成果

- 担当職員が母子寡婦福祉会の事務局に出向き、事前の打合せを行うことで企画や準備を円滑に進めることができた。
- コロナ禍によって開催が危ぶまれたが、1泊2日を取り止めデイキャンプとして実施することができた。実施後、母子寡婦福祉会と協議して日帰りの体験活動を、後日もう一回行うことができた。(第2回は、母子寡婦福祉会の事務局がある北九州市に職員が出向いて、クリスマスクラフトの指導を行った。)
- 第2回は、子どもと保護者を分けて活動した結果、お互いにより距離感を保ちながらそれぞれの活動に集中することができた。また、保護者が子どもの姿を、距離を置いて客観的に見つめる機会にもなった。(聞き取りによる感想)
- 日帰りであったが、テント設営や野外調理(ホットドック)などキャンプの疑似体験を行うことができた。母子家庭にとって日頃できないキャンプを体験してもらう機会になった(アンケートの自由記述や感想文より)
- 昨年に引き続きSDGsの紹介を開会行事で行った上で、ESDを踏まえた講座(人間と昆虫の関わりや環境問題)を実施した。企画において、北九州市ESD協議会から講師を紹介していただいた。講座後、家族で昆虫探しに出かけ、子どもも保護者も大変意欲的に活動することができた。

13 課題

- 開催日の設定（毎年、開催時期が台風シーズンであり日中の寒暖の差も大きくなるため、母子寡婦福祉会と協議しながら決める必要がある。）
- 母子寡婦福祉会との十分な意思疎通（母子家庭の方々が、キャンプ参加においてどのような願いがあるのか、どういった活動を求めているのかを、情報交換した上で活動プログラムをつくる必要がある。）
- 準備や移動も含め、プログラムにゆとりのある時間配分をするように努める。（活動場所によっては、移動距離が長くなったり時間を要したりするため配慮を要する。）
- 子どもへの気配りや他家族との交流面において不安を抱いている保護者も多いことから、支援スタッフ（ボランティア）の確保だけでなく事前の綿密な打合せが重要である。（大学との連携やボランティアとの事前研修等の実施）
- 今後も北九州市 ESD 協議会と連携して、参加家族に SDGs について考えていただくようなプログラムを企画し、ESD を推進したい。